月4日の日民協の58回総会の前日の 3日、あいちトリエンナーレの「表現 の不自由展」は中止に追い込まれた。名古 屋にいる私はその前後から、まさにその渦 中に巻き込まれてしまった。今回はその生 々しい体験を通じての私の顛末記を。

8月1日、私は翌日に裁判が迫った同僚の 川口創弁護士との共同事件で彼に連絡が取 りたいのだが全然折り返しもない。一瞬、 時折ある彼のレスの遅さかと思ったが、実 は1日の同展の初日から愛知県の事務局に 電話が殺到し、芸術監督の津田大介氏らと 深夜まで対応の相談を受けて大変なのだっ

その彼から自由法曹団の支部MLで、3日 の土曜日、現場に何か起きたときのために 弁護士の出動要請のメールが流れ、私は夕 方5時過ぎに駆けつけた。

会場に着き、表現の不自由展に入ろうと したところ、入れないとのこと。エッと思っ て周りを見回すと今回獅子奮迅の活躍をし た中谷雄二弁護士と目が合った。丁度中二 階の喫茶室で数人で話をしているところで、 「おっ、北村さん、いいところに、こっちに」 と手招きされた。聞けば、丁度大村愛知県 知事やが津田氏が、表現の不自由展の出展 者や実行委員会に相談もせずに今中止を決 定したばかりとのこと。まさに、出展者ら との対応の協議の真っ最中に出くわしたの だ。呼び止められ帰れなくなった私は、混 乱の中に今後の闘いを既に始めようとする 中谷弁護士と若手女性弁護士との間に挟ま り、これは大変なことだと認識。「再開のた めに仮処分を、明日日曜日集まろう!」と中 谷弁護士。日民協の総会のため明日午前に 名古屋を出る私は、ホッとしたのが正直な 気持ちだが、この場に居合わせたことが運 命だった。弁護団に加わらなかった申し訳 なさと、これが許されれば世の中大変なこ とになるぞとの直観が働き、その後、この 問題に「正対」することに。

まずは関係するMLに発信。直後の青法 協あいち支部会議で若手にこの問題(何故 税金を使って良いのか)を投げかけたところ 十分な反論が出来ないことを経験、これは 自分も含めて反論の理論武装が必要と考え、 MLに発信したら澤藤会員からすぐにアド バイス、これは有り難かった。それを元に、 ある月刊の機関誌に「恐ろしい世の中にな る予兆」「これだけは知って頂きたい重要ポ イント」「憲法守ろう、戦争反対が偏った思 想となる近未来」と題して3ヶ月連続でこの 問題でQ&A形式の寄稿をし、さらにそれを ML等で発信した。9月には青法協の全国 会議でも取り上げたところ、二次会でも修 習生、ロー生らが自ら熱心に議論してくれ、 手応えを感じた。

しかし、その後ショックなことが起こる。 私が10数年来、月1で参加する大学の名誉 教授、著名な芸術家、元新聞社重役らとの 勉強会兼食事会でこの話題を。安倍内閣や 憲法、原発問題等について見事に私と意見 の一致をみる親しい方々だが、ほぼ全員が 税金を使っての展示に嫌悪感を示された。

「少女像に芸術性は感じられない」、「政治 的な主張が強く感じられるもの、多数の人 々が不快に感じるものに税金を使うべきで はない」と。私が、これまで表現が拒まれ たことを世に問うことが主眼の企画だと述 べても変わらない。一気に、また初めてア ウエーになってしまい、深い孤独感を味わっ

この問題は難しい。日本もまだまだだ。 ため息をつきながら、さらに我々(自分)の 勉強の必要と課題を実感した。

(日民協理事 弁護士 北村 栄)

## ※編集後記

ランチのあとに、枯れ葉舞う新宿御苑の 歩道を散策。政治の私物化の象徴「さく らを見る会」。怒りを超え、浅ましさを 感じつつ、「あいちトリエンナーレ | への 補助金不交付という芸術の私物化が重な り、憤懣やるかたなしで、落ち葉を踏み つける。政治も文化も、そして学びの場 にも自由が脅かされている。今こそ、覚